JDDnet福井　令和4年度　オンラインシンポジウム

発達障害者の適切な就労に向けて必要なこと

発達障害児者への福井型就労支援プロジェクトの実施に向けて

令和４年７月２４日14:00開始予定

▪スケジュール

14:00〜14:05　開会の挨拶および開催趣旨説明
清水　聡（福井県立大学、JDDnet福井代表）

14:05〜14:35 話題提供1 福井型就労プロジェクトの紹介
芝　康弘（福井県障がい福祉課）

14:35〜14:55 話題提供2 障害特性に関する自己理解を進めるには
藤岡　徹（福井大学教育学部）

14:55〜15:15 話題提供3 企業における合理的配慮の提供プロセス
梶　進一（DMM.com）

休憩(10分)

15:25〜15:55　総合討議 「発達障害者の適正な就労に向けて」
司会　永井弘明（JDDnet理事）

15:55〜16:00　閉会の挨拶　(永井弘明)

開会の挨拶および開催趣旨説明

清水　聡

（福井県立大学、JDDnet福井代表）

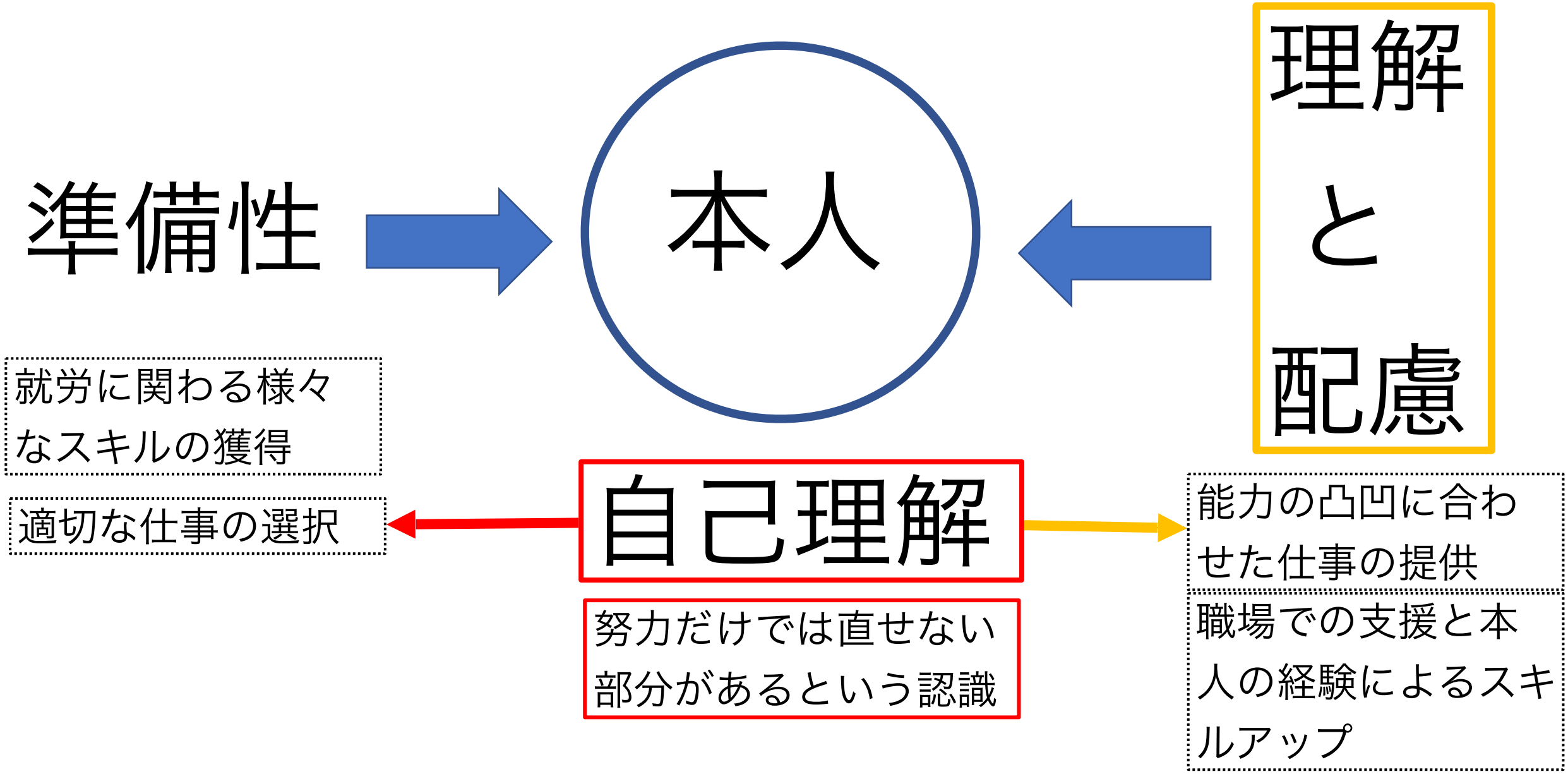
JDDnet福井 令和 4 年度 オンライン シンポジウム

発達障害者の適正な就労に向けて必要なこと

JDDnet福井・代表

福井県立大学学術教養センター

清水　聡


準備性
本人
理解と配慮
就労に関わる様々なスキルの獲得
適切な仕事の選択
自己理解
努力だけでは直せない部分があるという認識
能力の凸凹に合わせた仕事の提供
職場での支援と本人の経験によるスキルアップ

本日の流れ

話題提供1　福井型就労支援プロジェクトの紹介

芝 康弘（福井県障がい福祉課）

話題提供2　障害特性に関する自己理解を進めるには

藤岡 徹（福井大学教育学部）

話題提供3　企業における合理的配慮の提供プロセス

梶 進一（DMM.com）

話題提供1

福井型就労プロジェクトの紹介

芝　康弘
参事　（共生社会推進）
（福井県障がい福祉課）

芝　康弘（しばやすひろ）　参事

県庁に社会福祉職として入庁

児童相談所に13年間
障がい福祉関係の相談所や本庁業務11年

近年
平成25年4月から福井県総合福祉相談所　障害者支援課長
平成27年4月から福井県嶺南振興局敦賀児童相談所　相談判定課長
平成28年4月から福井県総合福祉相談所　子ども女性支援課長
平成31年4月から和敬学園　園長
令和4年4月から障がい福祉課　参事（共生社会）

話題提供　2

障害特性に関する自己理解を進めるには

藤岡　徹
（福井大学教育学部）

藤岡　徹（ふじおか　とおる）　先生

職歴

2007年4月 ～　2012年3月　筑波大学　Teaching Assistant
2007年4月 ～　2012年3月　筑波大学　心理・障害相談員
2008年10月 ～ 2012年3月　社会福祉法人和順福祉会　真壁保育園
非常勤心理相談員
2012年 4月 ～ 2014年3月　平谷こども発達クリニック　心理スタッフ
2014年 4月 ～ 2016年3月　福井大学医学部医学科　病態制御医学講座
精神医学領域　学術研究員
2016年 4月 ～　2019年3月　福井大学子どものこころの発達研究センター 特命助教
2012年 4月 ～　福井大学子どものこころ診療部　心理士
2018年 4月 ～　福井大学教育学部附属学園相談室　相談員
2019年 4月 ～　福井大学学術研究院教育・人文社会系部門（教員養成）（教育学部 初等教育コース　特別支援教育サブコース）准教授

資格

2007年 3月　小学校教諭第一種免許状　取得
2007年 3月　養護学校教諭第一種免許状　取得
2011年 6月　保育士　登録
2014年 4月　Autism Diagnostic Interview-Revised(ADI-R) Research License取得
2019年 2月　公認心理師　登録

話題提供3

企業における合理的配慮の提供プロセス

梶　進一
（DMM.com）

合同会社DMM.com　組織管理本部 ビジネスクリエーション部 部長

・2015年 障害者雇用部署新設。テレワークを活用した障害者雇用をはじめる。

・2018年 「障害者雇用職場改善好事例」優秀賞 （高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞）を受賞

・2020年 「厚生労働省　都市部と地方をつなぐ 障害者テレワーク事例集」に事例掲載

・合同会社DGホールディングス(親会社)、合同会社DMM.com(自社)、合同会社EXNOA(グループ会社)の障害者雇用を管轄

障害者就労へ IT企業連携

つづきの家（坂井・丸岡） DMM.comと

坂井市丸岡町の障害者就労支援事業所「つづきの家」は、IT関連企業の「DMM.com」（本社東京）と連携し、インターネットを活用した新たな就労実習を始めた。DMMから提供を受けるデータ入力の仕事を通して職業スキルを高め、特性に合った就職先の検討や就労意欲の向上につなげる。（山口晶永）

事業所は社会福祉法人「慶長会」が運営。近年は障害の中でも精神・発達障害のある人が増えているという。職種や就労に対するイメージを持つことが不得手な人も多く、早い段階での職場見学や雇用を前提としない実習支援が求められている。より実践的な助言ができる企業と連携して実習を積むことで、就職活動でのマッチングや事業所内での質の高い職業訓練へと反映させる狙いがある。

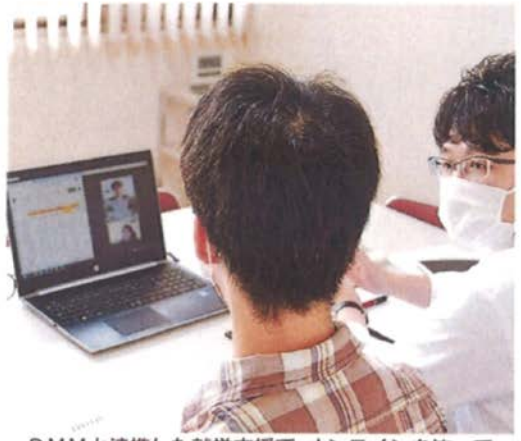
DMMは、障害者の採用から雇用管理までを行う専門部署がある。障害者の在宅勤務やキャリアアップを積極的に推進しており、現在は40人余りがデータ集計やバナー制作などの業務を行っている。

つづきの家での実習は6月から始まり、読み仮名（ルビ）入力に取り組む。DMMで働く障害者が実際に業務で行っている仕事のサンプルを、実習用として提供を受けている。

利用者は週ごとに業務の正確性や速度など具体的な目標設定を行う。DMMと週に1度、オンラインで実習内容を振り返る時間を設けており、担当者は「正答率は高くスピードも問題ない。自信を持って」などと声掛け。利用者は「同じ作業を続けるのは大変だが、気持ちの浮き沈みをコントロールし、楽しく仕事ができている」と話していた。

つづきの家の就労支援員、分野得郎さん(26)は「企業側の生の評価を得ることで自身の課題に対する気付きが得られ、仕事への姿勢も変わっている」と説明。「目標値と成果を客観的に把握し、ミスがあっても自ら解決していく能力や集中力の向上につながっている。新たな職域への挑戦と適性を見極めることで利用者の可能性は広がっていく」としている。

データ入力で技能磨く



DMMと連携した就労支援で、オンラインを使って実習内容のアドバイスを受ける「つづきの家」の利用者（左）＝坂井市丸岡町南横地

障害者雇用職場を福井の大学生見学

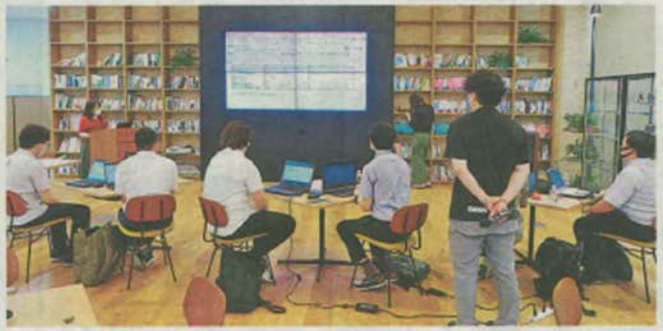
金沢のIT企業

障害者雇用に力を入れるIT企業の職場見学会が二十五日、金沢市米泉町のDMMドットコム金沢事業所であり、就職活動を控える福井県内の大学生が、働くイメージを膨らませた。

同社は障害者雇用促進のため、二〇一五年に専門部署を新設。これまでに身体や精神、発達障害のある社員四十九人を雇用し、コロナ禍前から在宅勤務を取り入れている。実際に学生をオフィスに招いた見学会は、初めて開催。福井工業大と福井大の学生六人が参加した。

学生は担当者の案内で、自席のない「フリーアドレス」の作業スペースやソファが置かれ、くつろげる空間などがある社内を見学。商品名にひらがなのルビを入力する業務も体験した。

福井工業大出身で、一八年入社の吉田武司さん(二七)ら社員に対し、学生からは障害者雇用と一般雇用の待遇面の違いや、就職面接時の注意点について質問があった。福井工業大三年の男子学生(二〇)は「大手企業を見学できて就活の参考になった。職場が広く、圧迫感を感じずに働けそう」と話していた。（古谷祥子）



障害者雇用の業務内容を体験する学生ら＝金沢市米泉町で

休　憩

15：20から再開

総合討議

パネリスト

芝　康弘（福井県障がい福祉課）
藤岡　徹　（福井大学教育学部）
梶　進一　（DMM.com）

コメンテーター

清水　聡　（福井県立大学）

司会

永井弘明　（日本発達障害ネットワーク 理事）

▪これまでのJDDnet福井の取組

JDDnet福井では過去に何度も就労をテーマにシンポジウムを開催してきました。

2010　教育から就労の断層をどう乗り越えるか？
2015　発達障害者の総合的な就労支援（移行支援）
2019　発達障害者を戦力にしている企業から学ぶ
2020　発達障害者の変わるところ変わらないところ

・困難な時期は、幼児期と就労時の2回（親亡き後も）
・学校教育の認識の甘さ（進学出来れば何とかなる筈）
・保護者の油断（健常者と同じように働ける筈）
・企業の発達障害者への理解不足（障害者への固定観念）
・福祉の継続的支援（児童ディから移行支援までの空白期）

▪事例発表者相互の疑問・質問

▪司会からパネリストへの質問

芝 康弘（福井県障がい福祉課）高学歴の発達障害者の課題を認識

・福井型就労プロジェクトの画期的なこと（エビデンスを基にすることの意義）(事業評価　PDCA)

・福祉の継続性について（児童ディから移行支援までの空白期）（学校へ受け渡すことの問題点）（相談支援専門員が機能しない）

藤岡 徹（福井大学教育学部）満足度と幸福度（well-being）自尊感情

インクルーシブ教育と個別の合理的配慮

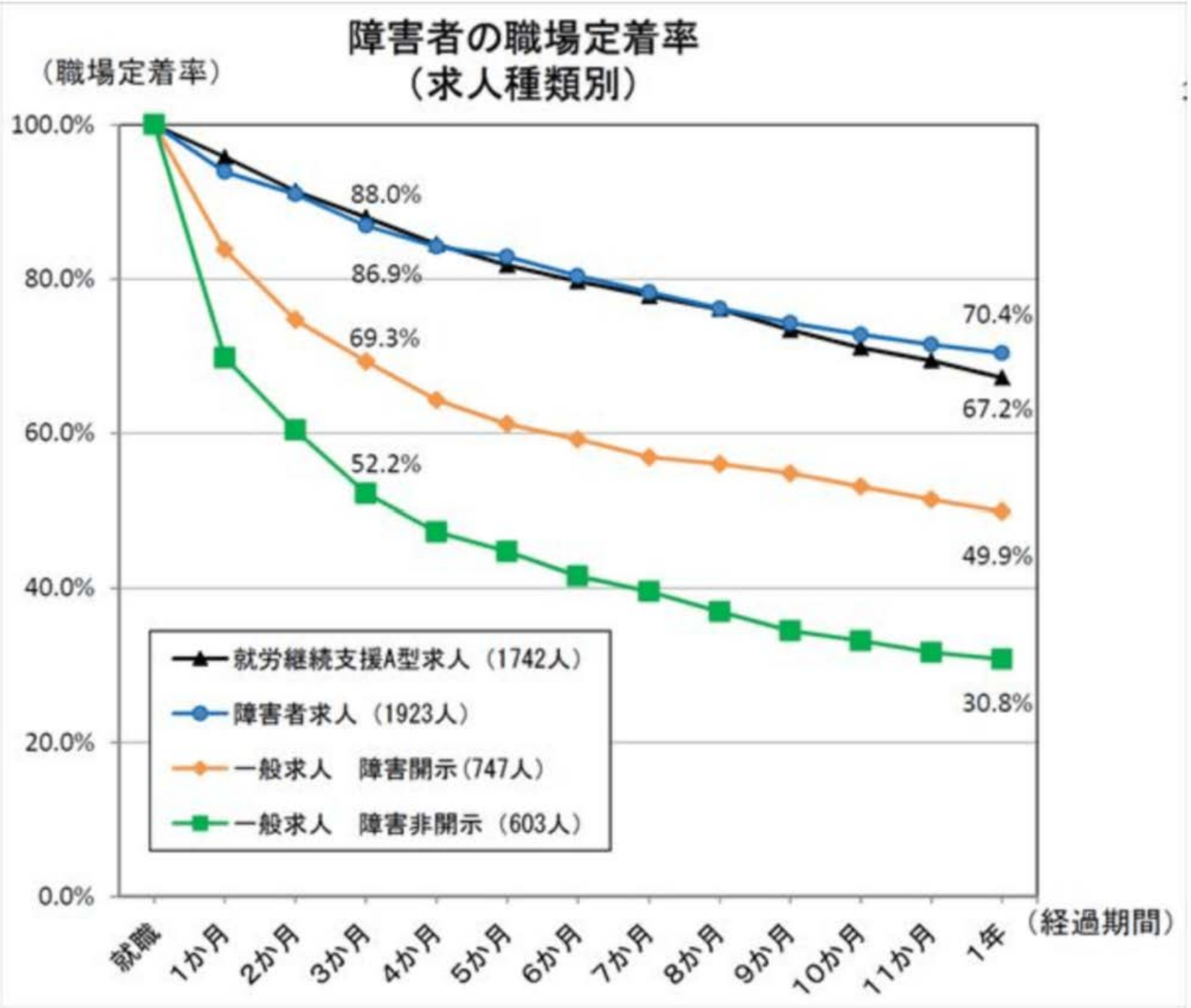
保護者教育の必要性

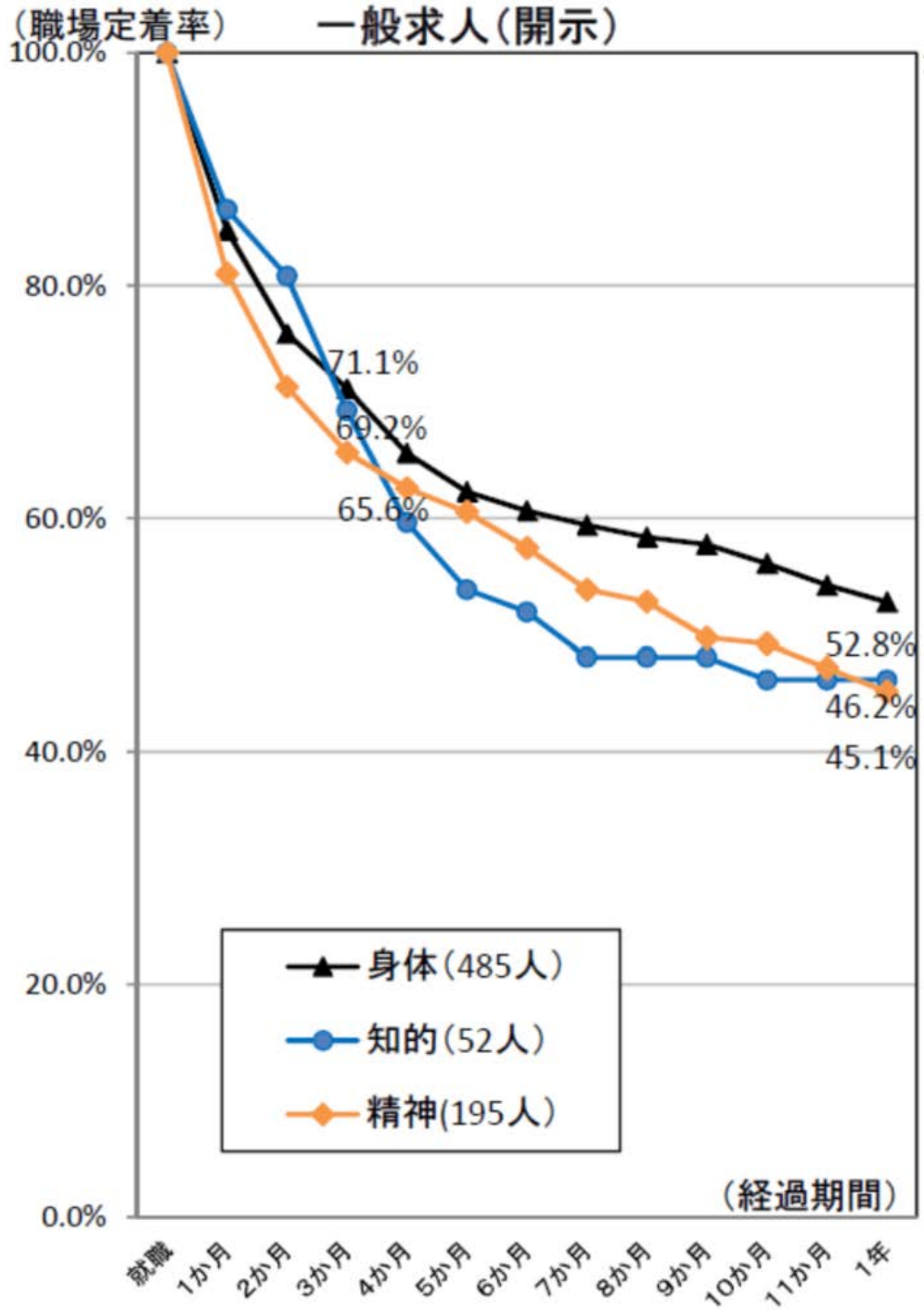
梶 進一（DMM.com）合理的配慮に基づいた多様な就労を提供

社員の多様化と協調性（特例子会社？）

非正規雇用での安定したライフプランニング リカレント教育による

キャリアアップ


障害者の職場定着率
（求人種類別）
（職場定着率）
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
88.0%
86.9%
69.3%
52.2%
70.4%
67.2%
49.9%
30.8%
就労継続支援A型求人（1742人）
障害者求人（1923人）
一般求人　障害開示（747人）
一般求人　障害非開示（603人）
就職
1か月
2か月
3か月
4か月
5か月
6か月
7か月
8か月
9か月
10か月
11か月
1年
（経過期間）


（職場定着率）
一般求人（開示）
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
71.1%
69.2%
65.6%
52.8%
46.2%
45.1%
身体（485人）
知的（52人）
精神(195人）
（経過期間）
就職
1か月
2か月
3か月
4か月
5か月
6か月
7か月
8か月
9か月
10か月
11か月
1年

地域	求人数
北海道	83件
東北	102件
関東	892件
北信越	52件
東海	196件
関西	365件
中国/四国	120件
九州/沖縄	151件

atGP地方別求人数（2022/5/1時点）

雇用形態	ハローワーク求人数
正社員	1370件（12%）
契約社員（派遣・嘱託社員含む）	7960件（69%）
パート	2210件（19%）
計	11,540件

※2022年5月時点, ハローワーク求人

区分	平均月収
日本人全体	約27万7千円
身体障害者	約21万5千円
知的障害者	約11万7千円
精神障害者	約12万5千円
発達霜害者	約12万7千円

閉会の挨拶

・地方において発達障害者の環境を向上させるには、公的サービスの提供される行政（公助）だけでなく、発達障害者及び保護者（自助）、及びJDDnet福井のような公益団体（互助・共助）との協働が重要

・そのためには共通認識・共通課題を持つことがスタート

・そのことを可能にしたの県議会の発達障害支援議連の支援、JDDnet福井を支援していただいている水仙ロータリークラブの　支援に感謝。あらためて協働のネットワークの重要性を再認識

・これからこのプロジェクトが成果をあげられるようにJDDnet福井もその使命を果たしていきたい